

炭鉄港オリジナルフレーム切手が贈呈されました

3月30日、炭鉄港の普及啓発のため日本郵便株式会社から販売された日本遺産「炭鉄港オリジナル フレーム切手セット」の贈呈式が市長室で行われました。

贈呈式では、日本郵便南空知地区連絡会の加藤武彦統括局長（＝写真中央＝）から、荻原市長と空知総合

振興局の白石俊哉局長（＝写真左＝）にそれぞれ手渡されました。

切手セットは『本邦国策を北海道に観よ 北の産業革命「炭鉄港」』のタイトルで炭・鉄・港それぞれをメインテーマとした3シートでの商品展開で、それぞれのシートに該当する解説が付いています。



「地域おこし協力隊」3人を採用しました



市は、地域おこし協力隊員として4月1日付で3人に辞令書の交付を行いました。

横浜市から佐野貴美恵さん(50)＝写真右＝、熊本市から岩崎佳奈美さん(30)＝写真左＝の二人は、自由な発想でまちづくりを推進する「フリーミッション部門」として、また、

苦小牧市から木村栄志郎さん(42)＝写真中央＝は「農業部門」での採用になります。

交付後、佐野さんは、「持ち前の明るさで働きたい」、岩崎さんは、「精いっぱい芦別をPRしたい」、木村さんは、「早く地域にとけこみ活動したい」など決意を述べていました。

通所支援事業所「きつずていく さくらんぼ」オープン

4月1日、芦別市子どもセンターつばさ内に開所した、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所「きつずていく さくらんぼ」の開所式が同施設にて行われました。

この事業所は、芦別市児童デイサービスセンターさくらんぼハウスの事業を引き継いだ社会福祉法人北海

道光生舎（赤平市、高江智和理理事長）によって運営され、児童の個別支援を中心に、小集団や体験の活動などから育成・療育を行います。

開所式では、高江理事長が「民間の良さを出しながら、市民のお役に立てるよう職員一同がんばりたい」と話していました。



芦別消防団副団長に空知管内初の女性消防団員が就任



4月1日、滝川地区広域消防事務組合芦別消防団の副団長に空知管内では初となる女性消防団員が就任しました。

就任したのは、大高和枝団員(64)。平成4年4月に設立された芦別消防団女性消防部に入団して以来30年にわたる活動の功績が認められ、平成

30年4月から務める女性分団分団長からの昇格となりました。

芦別消防団は団本部の下、第一分団から第六分団、女性分団の160人で組織されています。大高副団長は「もっと女性が活躍できる環境を目指していきたい」と今後への意欲を話していました。